

令和7年度 第3回「地域連携担当者」新任研修 開催報告

- 1 趣旨 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 県内「地域連携担当者」新任研修受講者
- 4 日時 令和7年10月21日（火）13:30～16:30
- 5 会場 滋賀県庁 東館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
オンライン（Zoom）併用による開催
- 6 内容
 - （1）事例紹介
 - ・日野町立南比都佐小学校 教頭 岡崎 美佐子 氏
 - ・高島市立安曇川中学校 教諭 落合 孝夫 氏
 - ・滋賀県立守山北高等学校 教諭 山崎 仁嗣 氏
 - （2）グループ別情報交換 テーマ「地域連携担当者として学びをつなぐ」
 - （3）閉講式
- 7 参加者数 123名（事例紹介3名、会場参加24名、オンライン参加96名）
- 8 事例紹介の概要

○日野町立南比都佐小学校

「地域とともにある学校づくり」目指し、地域・保護者・学校が協働して子どもを育むことについて丁寧にご紹介いただきました。

地域連携担当者の先輩として、職場や状況が変化しても「変えずに大切にいきいたいこと」「柔軟に変えていく方がよいこと」等地域連携担当者としての取組方について教えていただきました。



○高島市立安曇川中学校

生徒が考えたアイデアをいかした、主体性を育むための実践を交え分かりやすくご紹介いただきました。地域学校協働本部「安中カフェ」を中心に、地域学習、ボランティア、夏祭り参加や感謝フェスティバル等、保護者や地域の方とともに進め、地域連携を職員が楽しむことが大切と教えていただきました。



○滋賀県立守山北高等学校

地域資源や人材を幅広く活用した探求の時間や自身が担当される教科についてご紹介いただきました。また、高校生の進路を見据えながら、地域連携担当者として自身が「会わせたい」「体験させたい」人やことを取り入れることにより、実感が伴い、生徒の学びがより深まることを教えていただきました。



9 参加者のアンケート・情報交換の記録より（抜粋）

【事例紹介① 日野町立南比都佐小学校】

- ・「先生の声に合ったボランティア」という言葉が印象に残りました。ボランティアの方が学校へ来たり入ったりしていただく時は、教員が必要と感じている時こそ子どものために効果を発揮するものだと感じました。
- ・地域連携担当者として、何ができるのか、どうしていったらよいのかを具体的に教えていただき、一番知りたかったことを教えていただけた研修でした。「ヒト・コト日記」のように、学校の様子を地域の人に発信する活動なら自分にもできそうで、やってみたいと思いました。
- ・自分自身が課題として捉えていた、「担当者と周囲の教員の温度差」も、「実践を経て関わる教員が広がっていく」ことを感じる事ができ、立ち上げの苦労はあろうとも、子どもたち、教員、保護者がつながる取組があることに勇気をいただきました。
- ・岡崎先生が勤務されている学校のような、地域の方に来てもらう形での地域連携は、本校にとって新しく可能な限り取り入れていきたいと考えました。

【事例紹介② 高島市立安曇川中学校】

- ・子どもが考えたアイデアを学校運営協議会で地域の人に提案する取組は、「自分たちが考えたことを実際に役立てることができる」という自己有用感の育成につながると感じ、ぜひ本校でも取り入れてみたいと思いました。
- ・落合先生が言われていたように、「気軽に」連携を行うところから始めたいと思いました。
- ・地域連携カリキュラムは、とても良いと思いました。本校には、そのようなカリキュラムが整えられていないので、整えておくとう学年が変わっても、それぞれの担任の先生が、いつ、どの場面で地域とつながっていくことができるのかを共有できると感じました。
- ・中学校の具体的な取組を聞くことができ、身近に考えることができました。「子どもの思い」「教職員の思い」「地域の思い」を大切にしながら、地域連携カリキュラムをブラッシュアップしていきたいと思いました。気軽に教職員が地域連携を楽しめる雰囲気を作っていくことが大切だと思いました。子どもに良い活動を、形式にこだわらず考えていきたいです。

【事例紹介③ 滋賀県立守山北高等学校】

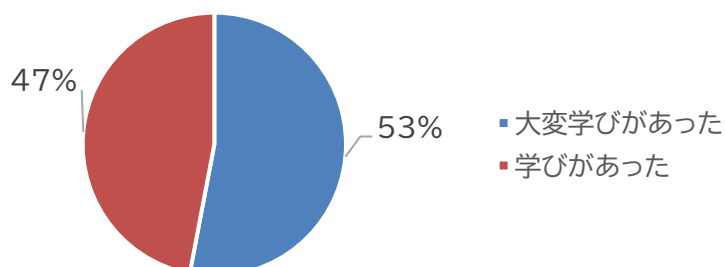
- ・地域と連携するには、足を運び、会話して信頼関係を築くことが何より大切だと改めて感じました。
- ・山崎先生がおっしゃった「人に会わせる」という言葉が印象に残った。生徒たちのことを思い浮かべながら、出会わせたい人を見つけ、連携を行うことが、学習のスタートになることがよく分かりました。
- ・学校の外に目を向け、視野を広げて教育活動をしなければならないと改めて思いました。これからの教育活動において、今まで以上に地域の人たちとの連携に目を向けて勤務できるきっかけをいただけたと思います。
- ・生徒の将来を見据えて、今すぐには効果が出ないかもしれないが、今後のために種を蒔いておくというスタンスに共感できました。

【グループ別情報交換】

- ・それぞれの学校での取組には、似ているところもあり参考になることが多くありました。そうした似た部分もあるからこそ、課題も似ており、共感できたことに安心するとともに、その課題解決に向けて相談することもできました。また、同じ疑問を持つ先生との出会いも大きかったです。
- ・地域の方から専門的な知識や技術を学ぶだけでなく、その方の仕事観、生き様、熱意などは、教員では伝え難く、地域の方から子どもたちが肌で感じ取るものだと思います。地域の方と子どもをつなぐ意義について、改めて学ぶことができました。

- ・私自身が、学校運営協議会に出席したことがなかったので、分からないことが多かったのですが、同じ境遇の方もおられ、考えを共有できたのでグループ別情報交換は効果的でした。様々な地域の特色があり、立地場所によって地域とのつながり方が違うので興味深かったです。
- ・他校種の方と話ができるのは、非常に有意義であった。話し合いながら、仕事の形が見えてきたり、このようにしてみようかなと思ったり前向きな気持ちになった。
- ・他校の現状を知り、学校の規模の違いや地域性によって地域と学校のつながりの意識の仕方が違ってくことを知りました。地域連携を進めるにあたっては、小中連携も必須ではないかと感じました。
- ・各校の事例を直接聞かせていただいて、勉強になりました。行事の削減や時数の関係で、今まで通りの連携が必要なくなったり、高齢化で例年通り実施できなくなったり、変革の時期であることが話題に挙がりました。新しいことを始めるのは、難しいことも多いですが、「こんな子どもに育てていきたい」「こんな地域にしたい」そのような思いを持って地域連携できればいいと思いました。
- ・子どもたちの成長を継続的に支えるためには、学校間や地域との連携が欠かせないと感じました。立場や視点の違いから新たな気づきがあり、協働の大切さを実感しました。

(1)地域連携の取組にかかる事例紹介について



(2)グループ別情報交換について

